

## 出題傾向

大問数8問、小問数45問で、すべて4肢択一式の選択問題となっている。内容は、会話文問題1問（小問10）、整序英作文問題1問（小問5）、長文空所補充問題1問（小問5）、文法・語法・語彙問題2問（小問10）、掲示・メール文問題1問（小問5）、中文空所補充問題1問（小問5）、長文総合読解問題1問（小問5）という構成である。

会話文問題は、A問題、B問題に分かれており、それぞれ長めの会話文に対して適文補充問題3問と、内容に関する英問英答問題2問が用意されている。整序英作文問題は、日本語に相当する英文を4つの単語を並び替えることで完成させる問題。語群に余分な語が与えられていないので取り組みやすい。長文空所補充問題は200～300語程度の文中に空所が5つあり、語群から適当な語を選択する問題である。文法・語法・語彙問題は、空所に適当な語句を選択して英文を完成させる大問が2問あるが、1つは日本語が与えられており、もう1つは日本語が与えられていない。掲示・メール文問題は、英問英答の形式で内容に関する問題が出題されている。細部の情報も問われるので注意深く取り組む必要がある。中文空所補充問題はA問題、B問題としてそれぞれ100語程度の英文が出題されている。文脈から空所に適当な語（句）を選択する問題である。最後の長文総合読解問題は、500語レベルの長文で、空所補充問題が1問、内容に関する英問英答が3問、日本語での内容一致問題が1問となっている。

全体として、細かい文法・語法・語彙・イディオムを個別に問う問題より、英文を読ませた上で英語の運用力を問う問題が多くなっている。難易度は高くはないが、英文の量はかなり多く、問題数も多いので、語彙力・文法力・読解力と、スピーディーに問題に対処していく対応力が試される。

## 学習対策

### ●会話文・掲示・メール文問題

センター試験問題に近い出題であり、対策としてはセンターの過去問やセンター対策用の問題を演習するとよい。特にさまざまな情報の読み取りが問われるような問題は丹念に演習したい。このような問題はゆっくり時間をかければ解けるはずであるが、限られた時間内で情報を整理しようとするとうるさく混乱して思わぬ間違いを犯してしまう。対策は「慣れる」ことしかないので、自分なりの情報整理の方法を見いだせるように様々な問題に取り組むたい。

### ●文法・語法・整序英作文問題

まず簡単な文法参考書と、詳しい解説のついた、整序英作文問題を含む標準レベルの文法問題集を準備する。最初の回はじっくり時間をかけて、わからない文法事項は文法参考書で確認しながら、理解することを中心に問題を解き進める。2回目には、スピードを速めて出来なかった問題をチェックしながら演習する。3度目は、出来なかった問題を中心に演習し、重要表現やイディオムは、周辺知識も含めてノートにまとめておく。最終的に、直前期にノートにまとめた内容を中心にして、再度問題集を解くようにすれば万全だ。

### ●長文空所補充問題、長文読解問題

まず、自分の語彙力を診断してみよう。一行に2～3個以上分からない単語があるときは、語彙力を増強する必要がある。単語の中でも、主語と述語に関わる名詞と動詞が重要だ。ただ漫然と単語の勉強をするのではなく、必須単語レベルの名詞・動詞を最初にしっかり勉強することで英文を読むことが楽になる。

学校や予備校で英文読解を勉強するとき、日本語に訳すことを前提とした、文構造や細かい文法・語法に重点を置く精読的な勉強になりがちだ。もちろん、そのような勉強も必要なのだが、大量の英文をスピーディーに読む進みながら問題を解くにはあまり実践的とは言えない。二つの方法がある。一つは、音声付きの英文を準備し（近頃は教科書の英文に対しても音声教材がついているはずだ）、耳から入る英語の速さに合わせて、テキストを数回通読し、段落ごとに大まかな意味を捉える練習を繰り返す方法だ。もう一つは、音読である。音読は、自分の理解の速さに合わせて英文を読み進められ、前に戻って英文を確認できないために、英文を前から順に読み下すのに必要となる技術が自然と身につく。いずれにしても、精読をする前に必ずこのような過程を辿ることで、偏りのない読解力が身についてくるはずである。

英語は、「繰り返す」ことで最も大きな効果が得られる科目である。忘れては覚え直し、また忘れては同じ作業を繰り返すといった、愚直な努力が必要だ。上記のアドバイスを参考にして、努力を継続し、栄冠を勝ちとってもらいたい。

## 出題傾向

大問三題で、大問㉑が1500字程度の随筆的な文章の読解問題、大問㉒が1800字程度の論理的な文章の読解問題、大問㉓が文の整序問題と語彙問題という構成である。それぞれに10問程度の小問があるが、すべて5肢択一式の選択問題で、合計29の問題数である。問題文が比較的短く読みやすいものであることや、設問が基本的なものであることから、全体的にはやや易しいレベルといえる。基本的な国語力がきちんと身につけているかどうかを測ることを主眼に置いた出題の傾向が見て取れる。大問ごとの特徴は以下のとおりである。

大問㉑は、福岡伸一『やわらかな生命』からの問題文である。宮沢賢治が詩のなかで描いた「青」という色から生命観へと思索をめぐらせた内容の文章で、適切な接続語などの空欄補充、傍線部についての理由説明や内容説明といった形式の読解問題である。読解に絡めた漢字の選択問題、作品名を問う国語常識の問題も出題されている。

大問㉒は、山極寿一『「サル化」する人間社会』からの問題文である。サル社会との比較から人間社会における家族について考察した内容の文章で、傍線部で述べられていることの背景にある筆者の考えを問うという形式の読解問題が中心となっている。脱文補充とは別に結びの一文を入れる空欄補充問題が設けられていることや、段落の役割を問う問題や文章構成に関する問題があるのが特徴として挙げられる。

大問㉓は、300字程度の文章に続く文を論理に即して並べ替える問題と、漢字の正しい読み書きや言葉の使い方、外来語の意味・用法、敬語の正しい使い方を問う語彙問題からなる。後者については、ほとんどの設問が「適切でない」ものを選ぶ形式であるということが特徴として挙げられる。

## 学習対策

語彙問題のウェイトが高いので、まずは漢字と語句の問題集を使って演習を重ねよう。出題形式は選択式であるが、漢字の書き取りが正確にできるように、実際に書いて学習するのがよい。漢字の読み書きができるようになると、その意味を理解して言葉を正確に使いこなすことができるようになる。特に大問㉑の語彙問題では誤字や誤用が問われているので、その対策としては、漢字を語彙として捉え、その意味を文脈のなかで覚えるようにすることが必要である。漢字力は語彙力であり、語彙力は読解力の基礎になるものでもあるので、まずしっかりと漢字学習に取り組んでほしい。なお、外来語に関する問題も出題されているので、日ごろから外来語にも注意して、辞書などで正しい意味を確認しておきたい。また、敬語の正しい用法も問われているので、実用国語向けの問題集も仕上げておくとよい。

読解問題の対策は、上に述べたような語彙力をしっかり身につけた上で取り組みたい。まず、基本レベルの問題集で問題文を正確に読む練習から始めるとよい。段落ごとの要点を捉え、段落と段落の関係を捉え、全体がどのように構成されているのかを見極めて、100字要約をするという練習を積み重ねていくとよいだろう。文章を正確に読み解くことができれば、設問に答えるのは難しいことではない。正解選択肢を見分けるためには、筆者が述べている文中の言葉のなかに根拠を探すという練習が有効である。また同時に、誤選択肢の誤りの箇所を指摘する練習をしていくとよいだろう。もちろん、問題意識をもち、幅広く読書して人間や社会に対する思索を深めておくことも大切である。

国語力を鍛えることは思考力を伸ばすことにつながる。国語力は思考力でもある。それだけに国語力を鍛えるための近道はない。遠回りをしてもしっかり取り組んでいくことが、力を確実に身につけていく方法なのである。